

# 平成24年度 堺市障害者自立支援協議会

## 第3回 地域生活支援部会 議事概要

---

日時	平成24年10月1日（月） 午後1時30分～4時30分
場所	堺市総合福祉会館 5階 第2研修室
出席者 （敬称略）	三田、谷口、河野、中島、林、柏木、小林、所、隅野、園、森、佐久間、 福井、吉村、大西
欠席者	松林
事務局	障害施策推進課（富田、中島、大塚）
事務局補助	総合相談情報センター（松本）

---

### 1. 研修及びネットワークについて 資料1

#### 【テーマ設定の経緯等（部会長から）】

- ・ 今回のテーマは「研修」及び「ネットワーク」となっている。
- ・ 今年度の第1回の議論の中で、「研修」については、「研修を継続していくことで、ネットワークづくりにつなげていこう」ということが元々の目的としてあり、昨年度から研修担当において研修の実施を進めていただいているが、現時点ではネットワークの構築というところまでは至っていないとのことであった。また、「ネットワーク」については、「新たなネットワークだけでなく、既存のネットワークについて整理し、それを活かしていくべきでは」という意見や、「ヘルパーならヘルパーのみのネットワークということではなく、他機関とのネットワークも必要」といった意見が出ていたことを受け、本日、資料として既存のネットワークについて一定の集約を行ったものが用意されている。

#### 【資料の説明（事務局から）】

- ・ 資料についてご説明させていただくと、自立支援協議会委員に対してアンケートを実施し、その回答を集約したものであるのですが、すべてのネットワークを網羅しているわけではないが、それでも合計41ものネットワーク数となった。
- ・ 単なる羅列では分かりにくいいため、事務局において一定の分類をさせていただいた。
- ・ 指定相談支援事業者とのネットワークの構築については、資料では一部の区のみとなっているが、立ち上げ中のもも含め、全区において何らかの形で実施されている。

#### 【意見要点①（アンケート結果から）】

- ・ 資料の29番目「精神障害者連絡会」について、正しくは「精神障害者ホームヘルパー連絡会」である。
- ・ 例えば、発達障害に関するネットワークはこの中に入っていないが、どのような状況か。  
⇒親の会や当事者グループ、支援者の集まりはあるが、それらが一緒に集まって何か

をやっている、という状況ではない。

- ・会議としての公式なネットワークというものがまずあり、それから、サービス種別や障害種別ごとのネットワークがあり、さらに小さいものとして、地域の中で当事者や親などが自主的に集まっているネットワークもあるといったイメージか。
- ・今回は「委員が関わっているもの」という範囲で集めた情報であり、全部は出ていない。
- ・何が足りないか、しかし、今あるものを私たちがあまりにも知らないのかもしれないので、どこかで共有できるかどうかという視点も重要。
- ・日々の相談の中でも、例えば「発達障害の当事者の集まりはないですか」と聞かれたら、その都度いろいろ調べて情報提供しているが、その都度集めないといけない。
- ・大阪セルフヘルプ支援センターのように情報を一括して収集し、そこに問い合わせれば「こんな当事者団体がありますよ」といった情報が得られるような仕組みがあれば。
- ・ネットワーク自体は、その必要性から地域にできてくるものであり、それぞれ自由に広がっていくものでしかないが、自立支援協議会がそれを系統化するというか、どんな目的で集まっているネットワークがどこにあるかということをお知らせできるような、そういう役割はやはりどこかに必要かもしれない。そこに聞けば、利用できるとか、拠り所が分かるとか、そういう機能が自立支援協議会、あるいは堺市に求められているのでは。つまり、コントロールはしないが、情報は集約する、あるいは、もう少しこんな整理すればもっとうまく進むかもしれない、といった場合にコーディネーターするようなイメージ。
- ・自立支援協議会としては、今回このような形で集めてみたことで、まず1回目の共有をしたということになるが、これをやってみて改めて「もっと多くのネットワークがある」ということが分かった。そういった情報がある程度、集約されていくことも必要なのではないかということが1つ。もう1つは、まだ出来上がっていないネットワークについて、自立支援協議会が、というわけではないのかもしれないが、きっかけとして、つくっていく必要があるようなものの中にはあるのではないかということ。例えば、いろんな事業者、グループホーム、また、場合によっては先ほどのピアであるとか、そういった部分では少し関与しながら、協力していく部分もあっていいのかもしれない。あとは、自立支援協議会として、つながりきれていない分野や機関があるのかどうかについて確認していく必要がある。

#### 【意見要点②（ネットワーク）】

- ・ネットワークの機能としては、1つは参加者同士の情報交換。そこで得られた情報はそれぞれの組織や個人に戻って、今後の活動に役立っていくものである。もう1つは課題集約。集まって話をしていると、組織や個人では解決できない課題が出てくる。内容によってはそのネットワークで解決を図ることもあるが、やはりそれでは解決しきれない課題もあるので、それらを集約し、別のところに持っていく、解決のために種をまく、ということになる。そういった役割をもし自立支援協議会が担えるのであれば、いろんな地域のネットワークとの結びつきが取れやすくなるのでは。

- ・自立支援協議会として、他のネットワークとどのようにつながっていくか。まずは自立支援協議会の存在を知ってもらうということが大事。
- ・ネットワークをつくる主体としては、課題を感じている人たちがいて初めて成り立つわけで、そのネットワークづくりを自立支援協議会が担う、つまり、なかなか一般の所ではできない部分について、自立支援協議会が、課題を課題として認識し、主体となっていく、というのは、1つの手法としてはあると思うが、本来の自立支援協議会の役割でいうと、そこよりも、既存のネットワークの情報を収集・集約し、それを知らせたり、ネットワークをつくらうとする人たちがつながっていくための応援をしたりするような役割の方が大きいのではないかな。
- ・本来の自立支援協議会の役割は、それぞれのネットワークで出てきている課題の解決であり、困難な問題をかかえる人たちが住みやすいような地域づくりである。
- ・すべてを自立支援協議会が担う必要はなく、社協などもある。ただ、障害種別を超えて、公と民がいて、当事者も入っている、といった機関はほかにはないことを考えると、自立支援協議会の役割は大きい。
- ・既存のネットワークの情報収集については、今あるものだけを収集したところで何も進まない。それよりも、全国的にはもっと様々な取組みがなされているので、それらをどのようにして堺市に落とし込むかを考えてく方がよいのでは。ただ、情報収集は大変ではあるが。
- ・今あるものを集めるのも大変で、集めたと思ったら無くなっているかもしれない。
- ・情報の中身としては、先ほどの「ネットワークが抱えている課題」も含まれるのではないかな。また、集められた課題については、自立支援協議会がすべて取り組むというのではなく、ネットワーク同士をつなぐことにより、前向きに動き出す場合もあるかもしれない。そうしたコーディネートを行いながら、自立支援協議会しかできないものや、自立支援協議会だからこそ取り組む価値があるものだけを選んで取り組んでいく。そうすることで、政策提言にもつながっていく。つまり、自立支援協議会に求められるのはネットワークを結びつけるコーディネート機能と、課題を整理した上で優先順位をつけ、それをまたネットワークに返していく機能ではないかな。
- ・ネットワークづくりの主体については、自立支援協議会が主体となるのではなく、そのネットワークの核となる所に基本は任せるべきで、自立支援協議会が担うべきは、課題整理や施策提言、情報収集や発信が柱である。ただし、自立支援協議会が主体的なネットワークづくりを一切しないというのではなく、先ほども言われたとおり、自立支援協議会でなければできないネットワークづくりもあると思うので、その部分は取り組んでいくべき。
- ・そうは言っても、地域づくりとして資源を開発していくことも自立支援協議会の機能の1つであるので、地域にないネットワークをつくることも大事なのは。
- ・先ほどの「課題解決のためのコーディネート」というのが、一番すっきりすると思う。自立支援協議会として議論することもあれば、各ネットワークを集めてコーディネートすることもあるのでは。
- ・ネットワークのイメージが、各委員で異なっているようなので、まずは、自立支援協

議会が求めているネットワークのイメージをもう一度、確認する必要がある。私の中では、年に1～2回しか開催しないような「偉い人たち」の集まりはネットワークではないと思っている。もっと、交流がオープンにできて、かつ、その情報が当事者にとって有用なもので、どんな小さなものでもよいのだが、そういったものが私のネットワークのイメージである。そういったネットワークの情報について、おそらく各区、特に社協などは、すでにたくさんの情報を持っていると思うが、そういったものを出してもらおう。具体的には、できるだけネットワーク側の負担を減らすため、ネットワークの目的や課題などを書き込む書式をこちら側で用意し、なるべく短い期間で呼びかけて書いてもらう。漏れは必ず生じるので、完全なものにはならないが、そういうものが1つ形としてできれば、新しくできた所や漏れた所から「私たちもやっています」という形で連絡してもらえらる可能性もある。あとは、それをどこがやるのかという問題があるが。

- ・先ほどの「オープンで市民に有用なネットワーク」を考えた場合、それは「インフォーマルな社会資源」と言えなくもない。
- ・西区の自立支援協議会で作成している社会資源集は、短期間でパッと集めてできたものではないと思うが、どうか。  
⇒4年間かけて更新しながら作った。最初に集める段階で2年ぐらいかかっており、そこからまた蓄積していった。
- ・例えば、各区で負担にならない方法で、少しずつ集めていくというのであれば、できなくはないと思う。
- ・ネットワークには、関係機関が集まってできているネットワークと、当事者が集まってできているネットワークがあるが、どちらをイメージするのか、両方か。  
⇒私は市民や当事者が入っているネットワークの方を、先にイメージしてしまうが、皆それぞれ違ったイメージを持っていると思う。  
⇒私のイメージは、いろんな関係機関が集まったネットワークである。親の会などは、どちらかと言えば「当事者組織」であり、私たちがイメージしているネットワークとは少し違う。  
⇒今回アンケートを行い、資料として配付されているものは、関係機関のネットワークが中心になっている。
- ・20年以上前に、「ネットワーク論」として議論があった。当時語られていたのは、いわゆる公的なネットワークと、民間のネットワークは基本的に異なるものであり、公的なネットワークはメンバーもその都度、入れ替わるものであるし、内容もそれ自体、発展するものではなく、「固い」あるいは「つぶれない」ものであるのに対し、民間のネットワークはメンバーが入れ替わってしまうとつぶれてしまう。そこで、公的なものが民的なものをどうやって支援できるかという話になる。例えば、堺区の作業所ネットワークである「エールDEねっと」ができたとき、区の自立支援協議会に作業所のメンバーがいない中で、自立支援協議会そのものが何かをやるというのは現実的ではないことから、作業所の人たちを集める場をどう提供できるか、という視点で取り組んだ。そういう意味では自立支援協議会も、ネットワークというよりは、法で定めら

- れた組織であり、地域で育ってきたネットワークを、中には時限的なものもあるが、いいものであれば、なるべく枯らさないように水をやるのが自立支援協議会なのでは。
- ・ネットワークに縦の関係があるわけではなく、お互いが横並びになって、地域の中でいろんな役割を持って、いろんな形で、できてきているものである。それらのつながりという点で言えば、自立支援協議会も、障害者への地域での支援をするネットワークの1つの場である。つまり、個人が集まっているのではなく、それぞれの組織を代表する人で構成し、調整に当たるといことが、堺市のネットワークの1つの役割として機能している。その役割が何かということ先ほどから議論しているわけだが、ネットワークをつくるのを役割としているのか、自立支援協議会というのは、そうしたネットワークが、もう少し、必要なところには必要だ、とすることができたりとか、ネットワークを強化したり、やりやすくしたり、「課題を解決するための仕組みづくりのためのネットワーク」としての役割があるのではないか。
  - ・基本的には「ネットワークを応援するネットワーク」ということではないか。指示や命令をするのではなく、そこへ行けば、一定の支援をしてもらえとか、方向性を見いだせるとか、そういう場としての自立支援協議会が、いろんな団体が集まって、つくられているという考え方。
  - ・そういう意味では、堺区や西区での取組みというのは、自立支援協議会が主になって「やりましょう」というのではなく、あくまでも地域で集まっている人たちが主体で、それをつくる「きっかけづくり」や「場の提供」という形で進めていたのではないかと思うので、「ネットワークづくり」というのは主体ではなく、サポート役というイメージではある。
  - ・あとは、個々のネットワークをコーディネートする役割が、自立支援協議会にはあると思う。
  - ・ネットワークのとらえ方は広いので、必要なネットワークあるいはインフォーマルな情報については、これまで西区で蓄積してきたようなやり方も活かしながら、どう全体で集めていくのか、というのは当然、あっていいと思うし、一方で、今回このようにして集めてみた中で、もし、必要とするネットワークやつながりがあれば、自立支援協議会が主ではないが、きっかけづくりという役割でのコーディネートはできると思う。あとは、既存のネットワークの中で抱えている課題について、自立支援協議会の場で考えるのか、あるいはそうではなく、既存のネットワークをうまく組み合わせるのか、という部分だと思う。
  - ・区の自立支援協議会で言えば、事例を出し合う中で、どうしていくかというものがあるが、例えば、一人の人がいろんなサービスをインフォーマルも含めて利用しているケースがあったとして、その人を見たときに、いろんな支援がそこにあるので、それをネットワークとして広げていく、また、その過程で「これが足りない」といった形で、一人の人に対する支援と併せてネットワークづくりをしていくような、そういう手法もあるのでは。
  - ・地域活動支援センターが今年4月から再編されたが、それ以前からの課題が、そこにかなり反映されている部分もある。例えば西区にある「遊夢音（ゆうみん）」では、就

労している人が月2回、土曜日に来所し、音楽を楽しんで帰るといったものや、平日も音楽プログラムと美術プログラムを実施していて、在宅の人が親子で来所し、そこでは親子が離れて活動することができるので、それを繰り返すうちに一人で来所できるようになるといった効果も出ている。そうした活動は、自立支援協議会での議論が形となったものである。

⇒そういった取組みの中で出てくる課題についても、共有していけばよいと思う。地域活動支援センターというのは、ある意味「何でもあり」なので、「こういうものがあれば」という声を反映していくにはよいと思う。

⇒地域活動支援センターで何が行われているのかも含めて、情報を集めていく必要がある。

- ・情報を集める際、どんな人が顔を出しているのか、実際に使えるかどうか、といったことを、各区の自立支援協議会で聞き直してもらおうというのはいかがでしょうか。

⇒西区で社会資源集として情報を集めたときは、仕掛けとして、4月当初にメンバーが集まった際、自己紹介の際に「あなたの社会資源（人）」を出してもらい、ホワイトボードに書き出していった。例えば、イラストレーターや習字の先生で、すぐ頼める人など。そういうことをしないと、今回のアンケートもそうだが、出すべきものが何なのか、皆ピンと来ない。逆にそういうことをしからこそ、個人の「何でも屋さん」が出てくるのであって、「社会資源を出してください」という投げかけだけでは、ああいふものは出てこない。また、毎年メンバーが変わるので、その都度、自己紹介の際に自分の「持ちネタ」みたいなものを出してもらっている。ただし、問い合わせは直接ではなく、出してくれた人を通してください、というルールになっている。あと、なくなった資源は削除し、変更もしていかなければいけないので、作った後の維持は大変。

⇒社会資源であれば集めやすいが、ネットワークとなるとまた違ってくるのかもしれない。

⇒ただ、1つのお手本にはなると思う。

⇒その人が持っているネットワークという集め方でよいのでは。

- ・作業所から言われたのは、区の自立支援協議会を見たときに、ものすごく公的な「行政の組織」のような感じがして、横のネットワークのイメージがなかった、ということ。私たちはそういう意識はなかったのだが、外から見れば確かにそうなのかもしれないと思った。そういう意味では、地域のネットワークというのは、やはり自分たちで自由にやりたいという部分もあるので、場合によっては反発される可能性もあり、こちらから何かをやる場合は、相手にとって役に立つのかどうか、という視点も必要なのでは。やはり、行政側からの「地域のネットワークはこうあってほしい」というのは、敏感に反発されるものであるので、むしろ、自分たちのやりたいことを応援できるようなスタイルがよいのでは。
- ・イメージとしては、「自立支援協議会はネットワーク応援隊です」「必要があれば呼んでください」といった感じでは。
- ・「ネットワークの情報を集めましょう」ということで集中的にやるのではなく、日々の

業務の中で得た情報が、皆で活かせるものであれば、それを積み上げていくということによいと思う。

- ・集まったものに対して、「必要かどうか」ということについては、こちら側が必要というだけでなく、向こうが必要としているかどうかも重要。
- ・ネットワークをつくろうとするとき、それなりの「点」がなければならず、それをいかに「線」や「面」にしていくかということになるが、先ほどの「応援」という話で言えば、例えば、あるネットワークが地域にできたが、「ほかにどのようなものがあるのかが分からない」という場合に、「ここでこんなことをやっていますよ」という情報提供をする中で、「何かあれば応援します」ということを発信できれば。
- ・ある程度情報が集まってくれば、つなげていくことも可能となってくる。  
⇒その場合、向こうから「困った」と言ってくるのが前提だが、点は点でやりたい人たち、線になりたくない人たちもいる。  
⇒それはそれでよい。それを無理やりつなげるということはない。  
⇒実際、今の各区の自立支援協議会のメンバーを考えるとおそらく、どこかでつながっているのではないかと思う。
- ・「ネットワークとは何か」といっても、要するに「人と人とのつながり」でしかないのかもしれない。
- ・「自立支援協議会が何をするか」ということだと思うが、先ほどから言われているように、「自立支援協議会としてどこかにネットワークをつくろう」というのではなく、自立支援協議会は「ネットワークを応援する仕組みをつくる」ということであり、その方法についてはまだ十分議論されていないが、いろんな方法があるということは今出されているので、そういう部分を議論していく方がよいのでは。つまり、「そこに何が足りないか」とか「どんなネットワークをつくるか」ではなく、堺市のネットワークをどうすれば本当に応援できるのか、あるいは、それに対して自立支援協議会としてどういう役割が持てるのかについて、もう一度議論する場を持つとか、もう少し継続して話をしてはどうか。そうでないと、いつの間にか「自立支援協議会が何かよく分からないネットワークをどこかにつくらないといけない」という話になりかねない。
- ・必要とされる情報の収集というのは、何らかの形で取り組むこととし、集まった情報の中で「何が足りないか」という部分については、当事者側から見て足りないと思うのかどうか、ということもあるし、あるいは、こちら側から見てどうか、ということもあるので、それは集まった中で考えていくことだと思う。
- ・「課題を解決するためのネットワークづくり」に関しては、自立支援協議会に参画している人たちが、それぞれのネットワークから出てくる課題をどうしていくのか、という部分については今回あまり議論できなかったが、自立支援協議会としては、やはりそうした部分も考えていかなければならない。
- ・ネットワークの情報を集めたときに、その情報の中から課題も出てくるかもしれないし、各区の自立支援協議会の中で、一人ひとりのケースの支援を通して出てくる課題もあるかもしれない。ただ、「不足しているものが何なのか」ということについては、なかなか集約しきれていなかったところがあるので、自立支援協議会の仕組みをもう

一度、じっくり作り上げていく必要があるのかもしれない。

### 【意見要点③（研修との関係）】

- ・もともとは、研修とネットワークを結びつけて考えるという話であった。
- ・自立支援協議会でやっている「ヘルパー研修」や「グループホーム研修」は、ネットワークに向けた「きっかけづくり」の1つとしての要素もあるが、実際に研修の実施がネットワークにつながっているかということ、難しい部分もある。
- ・研修の中で、具体的にどんな取り組みをするのかという問題もあるが、まず、どんな形で応援するのか、しないのか、そこまではまだ話ができる段階ではないので、少なくとも情報については、私たちが相談支援をする中で必要なものについては集めてみる、ということによいと思う。

## 2. 研修担当の進捗状況報告について 資料2

- ・ホームヘルプとグループホームのいずれの研修においても、当事者の声を反映させるということが今年度のメインテーマとなっており、本日の部会のテーマとの関連で言えば、グループホームの研修においては特に、当事者の交流会を実施し、その中で当事者の声を聞きだした上で、研修に反映させようという方向で検討している。また、その研修が、居住系サービスのネットワークのきっかけになれば、という思いもある。

## 3. その他（「障害者の暮らしの場あり方検討会」に関する報告）

- ・前回の部会でご意見をいただいた「暮らしの場」について、「障害者の暮らしの場あり方検討会」の報告書が「障害福祉計画検討懇話会」で承認された。（報告書については10/5の自立支援協議会の本会にて配付予定）
- ・概略としては、前回の議論でもあったように、市としては当初「さかい型多機能グループホーム」というものを提案していたが、グループホームという住まいの場にいるような機能をつけることは、住んでいる人から見たときにどうなのか、という議論も経た中で、「さかい型地域ホーム」という形で、基本的には短期入所、あるいは有期限型のグループホームとして、いろんな機能を有しながら、地域の拠点として位置付けていこうという方向性で、各委員の了解をいただいたというもの。